



東北誘致

# 国際将来加速器委員会の記者会見発言要旨

【東京支社】26日の国際将来加速器委員会(ICFA)の記者会見に臨んだヨアヒム・ムニツク委員長、フェルミ国立加速器研究所のナイジェル・ロッキヤー所長、欧州合同原子核研究所(CERN)のファビオラ・ジャンノッティ所長、高エネルギー加速器研究機構(KEK)の山内正則機構長の主な発言内容を紹介する。  
【本記1面】

## 国際将来加速器委員会

### ヨアヒム・ムニツク委員長

素粒子物理学は、大発見が続く最もエキサイティングな分野。その中でICFAが一番重要視しているのが国際リニアコライダー(ILC)だ。今回の機会でも、調査研究を続け、将来までサポートすることを確認した。ILCは超精密な施設で安定した環境が必要。北上山地(北上高地)は北山高地(北山高地)はとも安定した地盤で、良い候補地だ。KEKで

## フェルミ国立加速器研究所

### ナイジェル・ロッキヤー所長

素粒子物理学ではどの科学分野よりも国際協力が進んでいる。技術的なノウハウ、知識、人的な交流が国境を越えて行われてきた。加速器技術の分野で日本はリーダーだ。次なる(素粒子物理学)課題を説くには大規模な実験施設と国際研究が必要で、ILCが一例だ。ほとんどの粒子が発見されたと思われるが、まだまだ謎がある。

## 欧州合同原子核研究所

### ファビオラ・ジャンノッティ所長

CERNでは基礎物理学で重要な前進を得られるほか、先進技術が開発され、いろいろな分野に応用されている。不当に高い投資ではない。欧州の人々がカプチーノ1杯を飲むお金を合わせたくらい予算にすぎない。ヒッグス粒子の次に何が発見されるのか分からない。だが、この粒子は分らないこともあり、他に暗黒物質などもあ

## 高エネルギー加速器研究機構

### 山内正則機構長

ILCは文部科学省の有識者会議でも、新しい物理法則の手掛かりを写ると評価されている。次世代の研究として日本に誘致し実現させたい。ICFAでILCに関する委員会をつくったのは、決定に時間がかかる中で、世界的な取り組みをつまぐ進める必要があるためだ。難しいことだ



主導的な実験が行われており、要求されている精密性は実現可能だ。ロシアや中国、韓国な



暗黒物質や暗黒エネルギーも宇宙に存在することは分かっているが、何な



る。自然は奥が深く、意外な発見があるかもしれない。ILCではヒッグスや



うになった。ILC建設の実現に

どICFAに参加する日本以外の国も、同じだけの熱い気持ちでサポートに賛成している。全世界の関係者の希望だが、日本はILCを誘致したいということを再確認し、表明してほしい。それが実現への一歩になる。

の分かっている。ヒッグス粒子は最も新しく発見された粒子だがその性質が分かれば、宇宙の謎を解く鍵になり、非常に細かく詳しく調査したい。そのためには特殊な加速器が必要であり、ILCがその能力を持ち合わせている。

その他の粒子を精密に調べることができる。日本はILCへの関心を示している。もちろん国際プロジェクトなので米国や欧州、その他の国々が参加し、協力するが、日本はホスト国として主要な役割を担ってもらうことになる。

は、資金面だけでなく、非常に多くの研究者や技術者、企業の参加が必要という問題もある。技術的な問題は解決が見えてきたが、リスクもある。今後は、それらに対する検討も必要だ。